

すそみろく

筑波山の山麓一帯を「すそみ」と名づけました
第6号（平成19年12月30日）
発行・すそみろく編集委員会 TEL029-863-5151（NPO法人つくば環境フォーラム内）



謹賀新年
皆様の「ご繁栄を」祈念
申し上げます。
筑波山神社宮司 田中泰一
029-8666-0502

霊峰筑波山より
世界平和を
祈念致します。
筑波山大御堂
029-8666-0126

米つくりアイガ毛借りて無農薬
かじかんだ手に息ふきかけて
雪遊び
田井小学校校長
松崎恵美子

謹賀新年
普門寺（神郡）
029-8667-0185

田井地区の皆様のお
お仕合せを祈ります。
井坂敦實（北条）

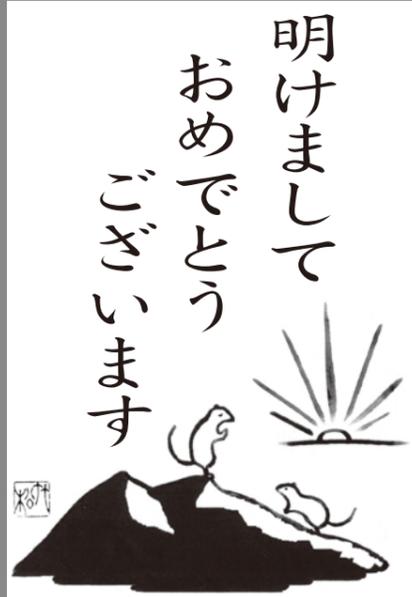
今年も元気で
水源地区での山仕事
筑波区長 齋藤靖夫

すそみろくを
応援します。
神郡区長 櫻井誠

すそみろくの編集に
多くの方の参加を
望みます。
六所区長 森田源美

すそみろくに
期待しています。
白井区長 鮎川勇一

田井地区がますます
元気になりますように
漆所区長 杉田進一



すそみろくの続刊と
充実を期待します。
館区長 飯田隆

すそみろくが
田井地区発展の
礎となつてください。
小沢区長 石田助一郎

すそみろくで地域を
盛り上げていきましょう
立野区長 鮎川清

田井地区の発展を
願っています。
杉ノ木区長 石嶋徳一

田井地区の
ますますの発展を！
大貫区長 糸賀幹男

晴耕雨読
鮎川隆雄（白井）

迎春喜福 観峯虚心
神郡山房主人（神郡）

故郷の情報をおくわくし
ながら読ませていただき
次号が楽しみです。
土田君枝（海老名市）

外に出でて
まづ仰ぎけり
初筑波
吉江八千代（立野）

鷺舞ふ
空の深さの
榎田きよ子（六所）

すそみろくを
応援しています！
飯村清子（白井）

すそみに生まれて
よかったデス。
飯村恵子（白井）

賀春
（株）オーヤマ
029-8667-7575

謹賀新年
有限会社インテリア21
インテリアプランナー 原武志
029-8666-11056

謹賀新年
そば処 丸忠 飯田忠
029-8667-0581

筑波大学教授 出口正義

筑波大学大学院准教授
関根久雄

「すそみろく」いつも楽しみに
読んでます。
これからもよろしく！
久美子（つくば市千現）

（株）中野は今年も
がんばります！
代表 中野秀彦
029-8664-4546

（有）結エディット
029-8669-5550

細草川の谷津田で米づくり
ぜひ一緒に！
つくば環境フォーラム
田中ひとみ
029-8663-5151

今年もすてきな話題をお届けで
きるよう、軽いネットワークで
仲良く楽しく取り組めます！
すそみろく
編集委員会 二同

600年の歴史に思いを馳せて 折形礼法にふれる

筆者の年代（20代）で「折形」という言葉から連想するものは、千羽鶴などに代表される一般的な「折紙」だろう。しかしこれはまったく間違った認識で、それはつまり若い年代に「折形」という文化がまったく知られていないということだ。

今回、我々すそみ編集部員は、この「折形」を現在に伝える数少ない先達者の一人である、館地区在住の飯田猷子先生の下を訪れた。そこで「折形」の歴史を学び、実際に体験をさせて頂いた。「折形」とは、結婚祝いの包み、または結納祝いの包みなどをイメージして頂きたい。金と銀、赤と白等の紐で結ばれた、ちよつと華やかな包みである。おそらく、筆者



お話を伺う編集委員（中央が飯田さん、左端が筆者）

の年代層以外でも、「折形」の認識はこの程度と予想する。しかし、今回の飯田先生のお話でその文化の深淵さを知ることとなった。
はじめに、「折形」は「包む」文化で、起源は鎌倉時代にまで遡る。その文化の主役は上級武家だ。彼らは、贈進の金銭や品物を折形で包み相手に贈ったのである。包む物は、馬具や武具、化粧道具、茶道具、花など多岐に及んだ。包む紙も、最初は中国産の唐紙であったが、次第に和紙に移行した。そして水引きと呼ばれる紐で包みを結ぶ。これが基本的な「折形」である。当時は「折形」とは高級武家社会だけの秘伝の礼法であったという。しかし、武士の貧窮など時代の流れにより、江戸時代以降、次第にその秘伝の性格は失われ、町人を含む世間一般に普及することとなる。そして女性を中心継がれてきた。しかし、現在は自ら折ることはほとんど無い。コンビニ、スーパー等で買って済ませてし

まう場合がほとんどであろう。

しかし、飯田先生は言う。「売っている折形は、売る為に折られたものです。それでは折形の本質を喪失しています。折形とは八礼の心Vを表すもの。礼とは相手を想う、敬う気持ちであり、また自らを謙る気持ちです。実質的にはものを包む作法であるが、本質的には心を包むもの、それが折形なのです。」この言葉に、私は日本人の



お正月用の折形

民族性の本質を垣間見た気がした。今回教わったのは、お正月に使う鶴の箸置き、箸袋、そして松を包む木の花包みなど。飯田先生の教えて下さる通りに折るがなかなか簡単ではない。とくに一度失敗して折り目がつくとその紙は使えないとのことで緊張する。しかし、600年の伝統の重みを感じ取ることはできた。

※「すそみろく」は全労済地域貢献助成事業『都市と農村を結ぶ「すそみの森」づくり』の一環として一部助成をいただいています。

デザイン・小沢陽子（漆所地区）